

20歳に贈る20冊

『100万回死んだねこ』

福井県立図書館 // 編著 講談社

実際に福井県立図書館に寄せられた、様々なおたずねが紹介してあります。みなさんも調べものをする時は、図書館にお越しください！



『生きるために必要な「法律」のはなし』

木村真実 // 監修、高橋麻理 // 監修、志賀野歩人 // 監修、青木美佳 // 監修 ナツメ社

社会に出る前に身に付けておきたい法律の話。知らなかった...とならないためにぜひどうぞ！



『村田エフェンディ滞土録』

梨木香歩 // 著、KADOKAWA

時は19世紀末。トルコに留学中の村田は豊かな出会いを重ねながら、異国の文化に触れていく。青春時代の思い出は、ずっと大事にしてくださいね。



『村田エフェンディ滞土録』梨木香歩 KADOKAWA

『同志少女よ、敵を撃て』

逢坂冬馬 // 著、早川書房

ロシア兵の少女が戦争で見たものは。戦争は残酷で、日本にも悲しい歴史があります。平和のありがたさを忘れてはならないことを思い出させてくれる物語です。



『愛するということ』

エーリッヒ・フロム // 著、鈴木昌 // 訳 紀伊国屋書店

長年にわたり読み継がれている愛の哲学書。これから多くの愛を知っていくあなたに読んでもらいたいです。



『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

プレイディみかこ // 著 新潮社

多様性という重いテーマをさらっと読むことができるノンフィクション。社会人として知っておきたい知識として読んでみませんか？



プレイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』新潮社刊

『さがしもの』

角田光代 // 著、新潮社

本にまつわる短編集。あなたが最後に本を読んだのはいつですか？ぜひ本、多き人生を！ 図書館は、いつでもみなさんのご来館をお待ちしています！



角田光代『さがしもの』新潮文庫刊

『なめらかな世界と、その敵』

伴名練 // 著、早川書房

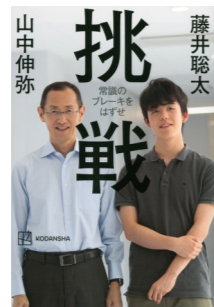
並行世界を歩き来ることができ、世界で少女が抱える孤独とは。表題作をはじめ2010年代で最もSFを愛する作家が贈る短編集です。SF入門にどうぞ！



『挑戦』

山中伸弥 // 著、藤井聡太 // 著 講談社

研究者と棋士、それぞれの世界の最前線で挑戦を続けるふたり。日々努力を続けるあなたに届けたいメッセージがここに。



『スマホ脳』

アンデシュ・ハンセン // 著 久山葉子 // 訳 新潮社

スマホが人の脳に与える影響とは。衝撃の事実、明日からスマホとのつきあい方を見直したくなるかもしれません。



アンデシュ・ハンセン『スマホ脳』新潮新書刊

『何者』

朝井リョウ // 著、新潮社

就活対策として集まるようになった5人。しかし、SNSや面接を通して次第に彼らの関係は変わっていく。Z世代必読のドラマがここに！

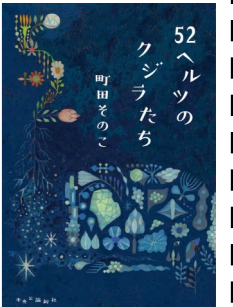


朝井リョウ『何者』新潮社刊

『52ヘルツのクジラたち』

町田そのこ // 著、中央公論新社

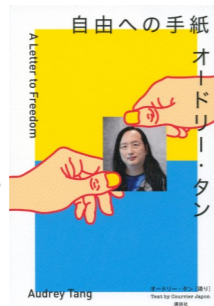
誰にも届かない声なき声。孤独なふたりが出会ったとき、新たな物語が動き出す——。つらいときは、誰かに声を届けてください。



『自由への手紙オードリー・タン』

オードリー・タン // 語り クーリエ・ジャポン編集チーム // 編 講談社

台湾IT担当大臣オードリー・タンによる、日本の若者へ向けた自由になるためのメッセージをぜひ、受け取ってください！



『ぼくを探しに』

シルヴァスタイン // 作、倉橋由美子 // 訳 講談社

シンプルだけど哲学的。不完全ではダメなのか。短い文章のなかで大切なことに気づかせてくれる絵本です。



『i』

西加奈子 // 著、ポプラ社

世界には悲しい出来事が溢れている。だけど、愛することはできるし、想うこともできる。きっとあなたにもできることがありますよ。



『そして、バトンは渡された』

瀬尾まいこ // 著、文藝春秋

血の繋がらない親の間をたらい回しにされながらも、愛情いっぱいに育った彼女は...。家族の絆の尊さを感じることができる物語です。



『戦争と平和』

草谷桂子 // 著 子どもの未来社

世界には今も戦争で苦しんでいる人がいることを忘れないでほしい。絵本をきっかけに考えてみてください。



『なんだろうなんだろう』

ヨシタケシンスケ // 著 光村図書出版

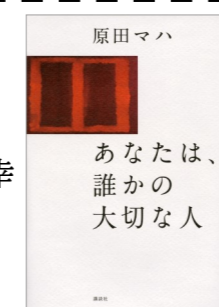
世の中には「なんだろう」が溢れている！ここでは12の「なんだろう」を徹底追求。いつまでもなんだろうという気持ちを忘れないでください。



『あなたは、誰かの大切な人』

原田マハ // 著、講談社

かけがえのない人に気づいた時の温かな気持ちを描き出す、小さな幸せ6編をどうぞ。あなたもきっと誰かの大切な人ですよ。



『蹴りたい背中』

綿矢りさ // 著、河出書房新社

高校に入ったばかりの、クラスの余り者同士。ほんの少し前の青春時代を思い出しながら読んでほしいです。そして実はこの本、みなさんと同じ年です！



天草にゆかりのある作家

みなさんのふるさとであるこの天草市からは、魅力ある作家が多く排出されています。二十歳を迎えるこの人生の節目に、郷土の作家による作品に目を向けてみてはいかがでしょうか。

いしむれ みちこ
石牟礼 道子

旧天草郡河浦町生まれの小説家、詩人、環境運動家。作家活動のほかに、長年にわたり、水俣病に関する活動を行った。芸術選奨文部科学大臣賞(2003年)他、受賞。

【主な著作】

『苦海浄土』『みなまた海のこえ』
『葛のしとね』『天湖』など

こやま くんどう
小山 薫堂

旧本渡市生まれの放送作家、脚本家。他にも幅広い分野で活動中。くまモンの生みの親の一人としても有名。天草市民栄誉賞(2009年)他、受賞。

【主な著作】

『恋する日本語』『おくりびと』(脚本)
『つながる技術』など

たかはま かん
高浜 寛

天草市生まれ天草市在住の漫画家。著作の多くがフランス語に翻訳されている。『ニュクスの角灯』で「手塚治虫漫画賞文化賞」(2020年)他、受賞。

【主な著作】

『ニュクスの角灯(ランタン)』
『愛人(ラマン)』『扇島歳時記』など

わらべ きみか

旧本渡市生まれの絵本作家、イラストレーター。子どもの知育をテーマとした絵本を多数発表している。

【主な著作】

『てのひらしかけえほん』シリーズ
『スキンシップ絵本』シリーズ など

【天草市立図書館に所蔵のある郷土作家】

黒瀬昇次郎、堀田善久、大久保美喜子、上中万五郎、
山下陽一、鶴田文史 など

【お問合せ先】

中央図書館 TEL:0969-23-7001 牛深図書館 TEL:0969-74-7100
御所浦図書館 TEL:0969-67-3931 河浦図書館 TEL:0969-74-8111



天草市立図書館
ホームページ

二十歳に贈る二十冊



AMAKUSA CITY LIBRARY